

殺虫剤抵抗性イネドロオウムシに対する 防除対策を紹介します

イネドロオウムシ

イネドロオウムシの被害



県内では山間地で発生が多い
5月下旬頃から成虫が水田へ侵入
7月初め頃まで成虫と幼虫がイネの葉を食害

☀ 殺虫成分フィプロニル抵抗性のイネドロオウムシを
県内の山間地の一部地域で初確認しました!!

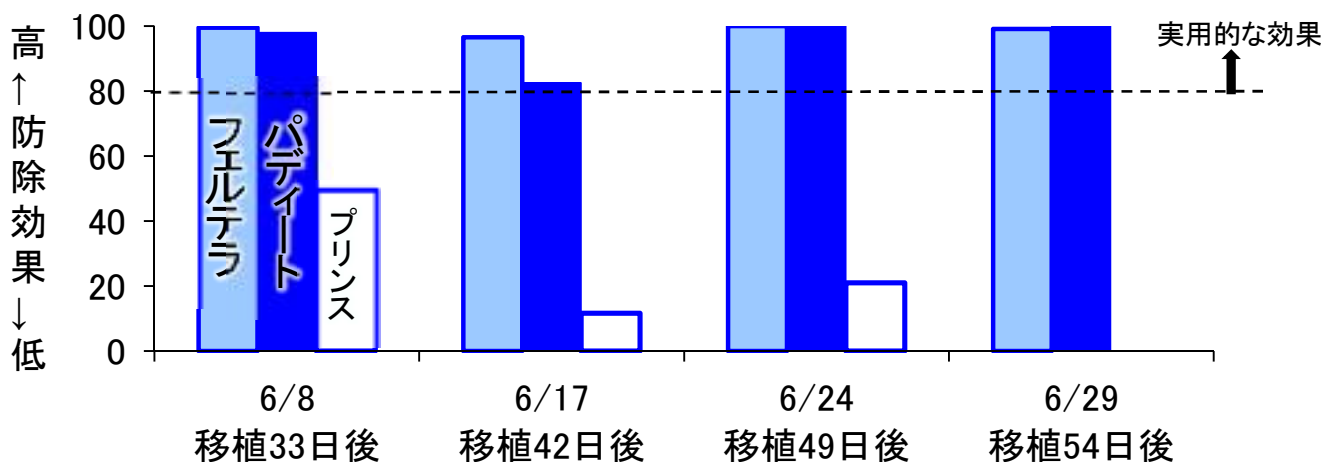
※ 育苗箱施用剤を使っているのに
イネの葉がかすり状に白くなっていませんか？

☀ フィプロニル抵抗性のイネドロオウムシは
ジアミド系殺虫剤を含む育苗箱施用剤で防除しましょう

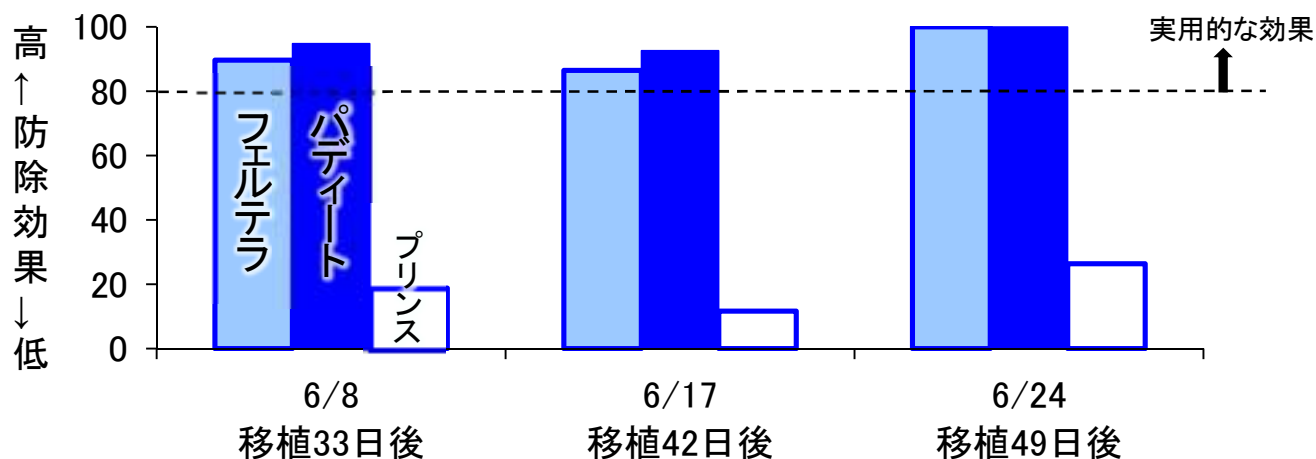
※ 実用的な防除効果が移植後50～60日間程度続きます。
追加防除の必要はありません。

フィプロニル(商品名プリンス)抵抗性イネドロオウムシに対する ジアミド系殺虫剤を含む育苗箱施用剤の防除効果

幼虫に対する防除効果



食害に対する防除効果



注1) 耕種概要

試験場所:八頭郡智頭町、品種:コシヒカリ、移植日:平成28年5月6日、稚苗機械移植(18.5箱/10a)

注2) 使用した育苗箱施用剤と処理方法

フェルテラ剤:Dr.オリゼフェルテラ箱粒剤、パディート剤:ルーチンデュオ箱粒剤、

プリンス剤:Dr.オリゼプリンス粒剤10 ※移植当日、50g/箱を手まき散布。

注3) 無処理区のイネドロオウムシ発生状況 多発生

【本情報を活用する際の留意事項】

①2017年2月3日現在、ジアミド系殺虫剤を含む育苗箱施用剤として、Dr.オリゼフェルテラ箱粒剤(プロベナゾール24%、クロラントラニリプロール0.75%)、Dr.オリゼパディート箱粒剤(プロベナゾール24%、シアントラニリプロール0.75%)等があります。

② 薬量が不足すると防除効果が低下するので、規定量を均一に散布してください。また、移植当日以前の薬剤処理については、各農薬の登録内容に従ってください。